

宮柁二記念館だより

2014.10.25

第41号

発行 宮柁二記念館

TEL・FAX

025-794-3800



市制施行10周年

明日につながる歩みを

市制施行一〇周年を記念し、春から多様なイベントが開催されています。

当館でも、今回の企画展のテーマを「魚沼市における宮柁二の足跡」として、これまで合併前の堀之内地域中心であったものを、広域に捉えることを意識して展示させていただいております。

このほか、「短歌教室」「短歌セミナー」など、計画した事業もほぼ順調に推移しておりますし、二〇回目となる短歌大会では、「一般の部」で九〇〇首を超える応募をいただくこととなりました。

また、「ジュニア短歌教室」は、これまで当館を会場として開いてきましたが、今年は、市教育委員会から市内の小中学校にお声かけいただき、中学校二校で「出前教室」として開催するなど、活動はその内容を含め、充実してきていると考えております。

文化活動は、他の部門とくらべ地味であり、一般の評価は高いとはいえないと言われますが「日常の積み重ね」「確実な一歩」が明日につながることを信じ、精進したいものです。

平成二十六年「魚沼市における足跡」展

故郷・魚沼とのつながり

平成二十六年は魚沼市が誕生して一〇周年となる年です。

この機会に宮柊二記念館では、魚沼市内の宮柊二の足跡をたどる企画展示を行っています。少年時代に商いに歩いた地や、作詞した市内学校の校歌資料などをとおして、宮柊二の歌風をつちかつた魚沼とのつながりを紹介しています。

忘れ得ない魚沼の思い出

若き日に故郷を離れ東京に暮らしていた宮柊二ですが、忘れられない思い出が、魚沼市内の各地にあります。出身地である堀之内をはじめ、広瀬谷の村々のことや大湯温泉郷の出湯を好んだことなど、短歌作品や散文に多く残されています。

譜んじて魚沼郡の村々の名をよみあぐる年の始に

この歌は昭和五〇年、柊二が六十三歳の正月に作られました。年頭にあたり故郷の記憶をたどってみたら、少年の日に訪れた近郷の村々の名前が次々と思い出されたのでしよ

う。そんな記憶の確かさに、自分自身でも驚いている様子が浮かびます。

書籍商の販路

柊二にしみ込んでいたこの記憶は、生家・丸末書店が当時、教科書販売等により魚沼の地域全体に販路を持っていたことによると考えられます。肇少年は、本の荷を背負い、父・

保治とともに魚沼各地の村々を歩いていたのです。その範囲は魚沼市をはじめ、小千谷から南魚沼、湯沢まで広範囲にわたっていました。

文章に残した帰郷

上京してからも、柊二は幾度も帰郷しており、帰郷に際しての想いを、まとめた文章や短歌も多く残されています。

昭和三十七年には、栃尾又温泉を訪れ、少年時代に何度も訪れたことを懐かしく語っています。また、昭和五〇年には、文芸春秋社の企画で、只見線沿線の村々を訪れています。雪の深い一月、小出駅に降り立ってから、広神、守門、入広瀬の大栃山、大白川とたどりました。東京への帰途に着く前には、湯之谷の温泉につかっていきました。

柊二作詞の校歌

魚沼には柊二が作詞した歌もたくさんあります。最も古い「堀之内小唄」をはじめ、昭和三十三年には、守門の青年たちの情熱にこえて「守門青年団歌」を作詞しました。

柊二の作詞のなかで忘れられない



「腹から歌える歌を」との願いに応えた守門青年団歌。

展示資料から

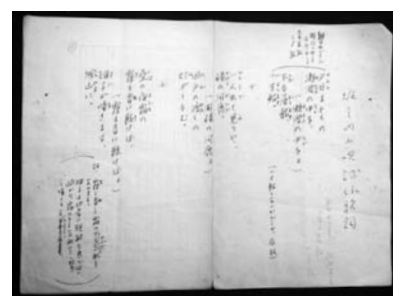
宮肇作詞「堀之内小唄」試作歌詞

堀之内十五夜まつりで演奏される屋台囃子の曲目に「堀之内小唄」という一曲があります。歌詞には、堀之内各所の地名とゆかりの風物が入っていて、往時の雰囲気を感じることができます。

この曲は、昭和十四年に宮柊二が作詞をしたものです。柊二が師事していた北原白秋は、門下に流行

歌のようなものを作ることを禁止していました。そのため、当時は一青年・宮肇の名で作ったそうです。堀之内の友人を介して、試作の歌詞を何度かやり取りした様子が、資料に残されています。

なお、作曲は、民謡研究家の町田嘉章。また、後には曲に踊りもつけられ、現在に伝わっています。



一青年として作詞した「堀之内小唄」。現在も歌い継がれています。

オープニングセレモニーより



テープカットの様子。5名の方からカットしていただきました。

新潟にまつわるエピソード

「宮先生の思い出」

五月二十四日には、「魚沼市における宮柁二の足跡」展のオープニングセレモニーを開催しました。当日は、テープカット、市長あいさつに続き、コスモス短歌会で新潟県支部の摩尼久晴先生から「宮先生の思い出」と題して、記念講演をいただきました。

摩尼先生は、県支部の活動に積極的に取り組み、特に支部報「河」の編集発行に尽力されています。そのため、県内での宮柁二のエピソードをたくさんご存知でした。

この日は、コスモス創刊にあたって、新潟県の仲間たちが宮



記念講演の摩尼先生。柁二の貴重なエピソードをお聞かせいただきました。

柁二を盛り立てていったことや、校歌発表会での講演内容、新潟で行われたコスモス全国大会での出来事について、話してくださいました。どれもが参加者から笑みこぼれるあたたかいお話でした。

また、支部報「河」のなかで特色のある号も紹介してもらいました。特に宮柁二先生追悼特集号の第七〇号には、宮柁二が新潟を訪れた履歴や未発表の柁二の講演内容などが掲載されていて、貴重な資料になったそうです。

講演の最後には、歌集『小紺珠』の冒頭にある一連「砂のしづまり」の歌を、柁二自身が朗読したテープを聞かせてもらいました。

参加者は、柁二の厳しくあたたかい人柄を伝えるエピソードの数々に、聞き入っていました。

雪の里に生まれて

柁二の歌には魚沼の風土が色濃く反映されていると言われています。柁二自身、そのことを否定することなく、作歌を続けてきたと思います。今回の展示では、柁二が雪の里、魚沼をくまなく知っていたことがあらためてわかりました。その足取りをたどる良い機会になったと感じています。

主な柁二の帰郷

- 昭和12年8月 上村武雄を見舞う、自作の堀之内小唄を聞く。
- 昭和14年8月 召集令状を受け帰町。
- 昭和24年8月 多磨全国大会(湯沢)終了後、帰町。
- 昭和33年3月 守門青年団団歌作詞。守門の青年たちと懇談。堀之内では公民館にて短歌講座。
- 昭和34年4月 父の納骨のため帰町。
- 昭和37年7月 新潟市でのコスモス支部歌会への帰途、小出下車、浅野屋にて小憩、栃尾又 自在館に一泊。
- 昭和38年5月 堀之内築に泊る。翌日帰郷。
- 昭和40年8月 新潟市におけるコスモス全国大会に先立って会員等と魚野川ライン下りを楽しみ、築で休憩。小出町川善旅館に一泊。
- 昭和41年11月 堀之内公民館竣工記念講演。
- 昭和47年4月 小千谷市山本山のかたくりを鑑賞の帰途、朝日新聞歌壇・選者達と築を訪れる。
- 昭和47年9月 築にて還暦祝い。
- 昭和50年1月 文芸春秋のため「わらべ歌紀行」。広神・守門・入広瀬の各村へ。守門村 小西屋に一泊、湯之谷村 大湯温泉一泊。
- 昭和52年11月 堀之内小学校校歌碑除幕式に帰郷。
- 昭和60年11月 堀之内町制60周年記念式典に参列のため帰町。(最後の帰町。)



昭和53年の広神東小学校の校歌発表会。発表会では、校歌にこめたメッセージを伝えました。

市内の柁二作詞校歌

- 堀之内町立堀之内中学校 (S27)
- 堀之内町立田川小学校 (S28)
- 堀之内町立原中学校 (S31)
- 小出町立伊米ヶ崎中学校 (S42)
- 堀之内町立堀之内小学校 (S46)
- 広神村立広神中学校 (S48)
- 堀之内町立堀之内中学校 (S50)
- 新潟県立堀之内高等学校 (S50)
- 広神村立東小学校 (S52)
- 堀之内町立原小学校 (S54)
- 広神村立西小学校 (S55)

第二〇回宮柵二記念館全国短歌大会

応募数は一万二千首以上

今年で第二〇回目となる短歌大会は、作品募集を締め切り、表彰式に向けて準備を進めています。応募状況は一般の部で九一九首、ジュニアの部で一万一千首を超え、一万二千首を超える、過去最大の応募となりました。

ここ数年、子どもたちが短歌に触

れる機会が増えていると感じます。これは、伝統的な文芸である短歌の学習に、さまざまな学校が取り組まれているためだと思います。

選歌をお願いしました三井修先生と田宮朋子先生には大変なお難儀をかけておりますが、作品数が多くなつた分、優れた歌も増えていると期待しています。

現在、十一月十六日に行われる短歌大会表彰式にむけ、関係者一丸となつて入念に準備しています。当日は大勢の方の参加をお待ちしております。

第20回 宮柵二記念館全国短歌大会 表彰式

- ◎日時 平成26年11月16日(日)
12:30～15:00
- ◎会場 魚沼市堀之内公民館 大ホール
宮柵二記念館隣り
- ◎内容 ①選者講評 ②表彰式
- ◎交通
〔車〕 関越自動車道 堀之内IC 3分
〔鉄道〕 上越線 越後堀之内駅 車で3分・徒歩15分
- ◎その他
記念館において特別賞受賞者の短歌色紙を展示します。

短歌大会 応募状況

区分	応募作品数
一般の部	919首
ジュニアの部	11,132首
(小学生)	3,099首
(中学生)	4,596首
(高校生)	3,437首
総計	12,051首

田宮 朋子 さん

昭和25年(1950年)、新潟県生まれ。東洋大学卒業。昭和55年、コスモス短歌会入会。平成3年、コスモス内同人誌「棧橋」に参加。平成14年、第48回角川短歌賞受賞。平成15年、第49回O先生賞受賞。同年、第50回コスモス賞受賞。平成18年よりコスモス選者。



現在、宮柵二記念館運営委員、現代歌人協会会員、NHK学園講師。

歌集『雛の時間』、『星の供花』、『雪月の家』。

三井 修 さん

昭和23年(1948年)、金沢市生まれ。能登で育つ。東京外国語大学アラビア語学科卒、一橋大学大学院言語社会研究科中退。商社勤務の後、中東経済研究所上級研究員、日本エネルギー経済研究所研究主幹、東京外国語大学非常勤講師等を歴任。商社勤務時代に中東駐在延べ6年。現在、塔短歌会選者、北陸中日新聞短歌欄選者、NHK学園講師、朝日カルチャー講師他。



著書として歌集『砂の詩学』(現代歌人協会賞)、『洪水伝説』、『アステカの王』、『風紋の鳥』(日本歌人クラブ賞)、『軌跡』、『砂幸彦』、『薔薇図譜』(泉鏡花記念金沢市民文学賞)、『海図』(島木赤彦文学賞)他、評論集『永田和宏の歌』。

短歌大会 選者ご紹介

平成26年度 前期事業

市内中学校への短歌出前講座



市教育委員会の学習指導センターが企画する出前講座で、7月7日、短歌教室の3名の方が守門中学校の授業にうかがいました。また、9月10日には、堀之内中学校で出張授業が行われました。

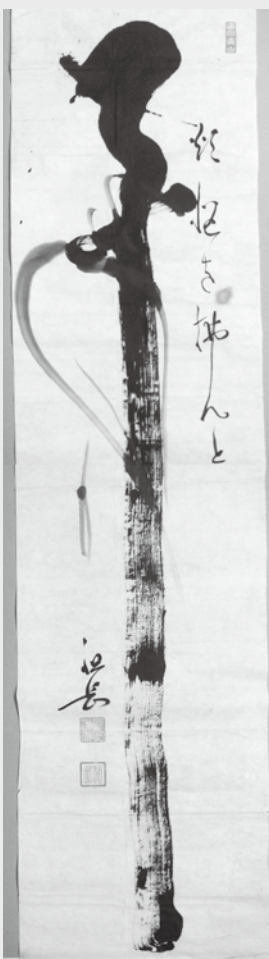
小宮山政男遊戯絵本「よく見ればこの世は浄土」



市内在住で、独自の書画で表現活動をされている小宮山さんの作品展覧会を、8月5日から17日まで開催しました。温かな絵に心なごむ言葉が添えられる作品は、訪れた人を楽しませてくれました。

新資料紹介

今年度これまでに貴重な資料を寄贈いただきました。厚く感謝申し上げます。今後も大切に保存してまいります。

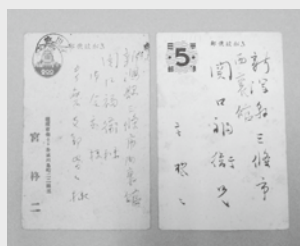


依山喜秋 書ほか

依山喜秋は宮柊二の旧知で、コスモスにも早い時期から参加していました。根小屋小学校の校長なども勤め、魚沼に縁の深い方です。このたび書5点を、前記念館館長の平澤憲一さんより寄贈いただきました。

また、里見淳の書軸1点も寄贈いただきました。

宮柊二 書簡



コスモス歌人の島田暉さんが保管していた、柊二からコスモス歌人・関口福衛に宛てた葉書を含め、関連の資料を寄贈していただきました。

宮柊二講座「宮柊二を語る」



7月20日、岡崎康行先生から、第一展示室において宮柊二の生涯と代表的な歌を解説する講演をいただきました。歌の朗詠テープを流したり、文法の話も交えたりと、中身の濃い講演となりました。

夏休みジュニア短歌教室



夏休みの8月22日、小・中学生向けに短歌入門の教室を行いました。地元講師の指導により、子どもたちは熱心に歌づくりに取り組んでいました。夏休みの思い出などを、うまく短歌にできたようです。

宮保治 発行
俳句雑誌「三峽」



宮柁二記念館収蔵資料紹介 No. 41

柁二の父・宮保治は、書店業のかたわら俳句の雑誌「三峽」を発行していました。投稿者は北魚沼のみならず、小千谷や六日町などからもあり、行商に訪れた先で文芸の仲間を募ったと考えられます。

文芸に親しむ父親の姿は、歌人・柁二の誕生に影響を与えたといえます。

あれから一〇年

一〇年前、中越大地震の対応に追われるなか、魚沼市が誕生しました。宮柁二記念館も魚沼市立となり、市民への普及に向けて、様々な取り組みを行ってきました。

この一〇年を振り返って…。どんなことがあったでしょうか…。豪雪、東日本大震災、そしてこの八月、広島を襲った豪雨、木曾の御嶽山での火山の噴火。

被災地の皆様に、心からお見舞い申し上げますと共に、亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。

館内の模様替え

「宮柁二と魚沼市」パネルと「宮柁二略年譜」をロビーの壁面に移動しました。お客様には見やすく、第一展示室の展示スペースは広くなりました。



館内の柁二年譜の位置を変更

「友の会」からのお知らせ

宮柁二記念館では、会員を募集しています。年会費は1,000円です。くわくことば、宮柁二記念館へお問合せください。

宮柁二記念館だより 第41号

発行 2014. 10. 25

問合せ 宮柁二記念館 (〒949-7413 新潟県魚沼市堀之内117-6) TEL・FAX 025-794-3800
メール miya-museum@city.uonuma.niigata.jp ホームページ <http://www.city.uonuma.niigata.jp/miyashuji>